

NAGASAKA MAGO EXHIBITION

Still A BLACK STAR with 24 Seasons

NAGASAKA MAGO EXHIBITION



長坂真護展

2026 **4.10** |金| ⇨ ⇨ ⇨ **26** |日|

営業期間 10:00-19:00 ※最終日は17:00に終了

会場 **エムズ ロイヤル ギャラリー**
名古屋市中村区名駅4丁目9番8号 センチュリー豊田ビルB1F

展示販売

入場無料

美術は、
人を救うためにある

電子廃棄物の世界最大の墓場、ガーナ・アグボグブロシー。この街に集まった廃棄物をアートに変えて売り続ける、長坂真護。彼はその利益で、リサイクル工場や農業、EVなどの事業、学校や美術館をつくり、スラムのまちを変え、人々にリアルな夢や希望を提供する。

©MAGO CREATION INC.

主催：株式会社名鉄生活創研 後援：名古屋鉄道株式会社 協力：MAGO CREATION INC.

M's ROYAL
GALLERY



Photo by Koutarou Washizaki (hannah)

長坂 真護

Nagasaka Mago

美術家

MAGO CREATION 株式会社 代表取締役

MAGO MOTORS JAPAN 株式会社 代表取締役

MAGO MOTORS LTD CEO

1984年福井県生まれ。

2017年にガーナのスラム街・アグボグブローシーを訪れ、先進国が捨てた電子機器を燃やすことで生計を立てる人々と出会う。以降、廃棄物で作品を制作し、その売上げから生まれた資金で現地にリサイクル工場建設を進める他、環境を汚染しない農業やEVなどの事業を展開。経済・文化・環境(社会貢献)の3軸が好循環する新しい資本主義の仕組み「サステナブル・キャピタリズム」を提唱し、スラム街をサステナブルタウンへ変貌させるため、日々精力的に活動が続けている。また、ガーナにMAGO MOTORS Ltd. を設立し、現在119名が働いている。(2025年11月時点)

2022年には、東京・上野の森美術館で自身初となる美術館個展を開催。第51回ベストドレッサー賞(学術・文化部門)を受賞。2025年の『大阪・関西万博』では、廃ペットボトルを再利用した作品「ミドルクラゲ “海月(うみつき)”」を展示。

WORKS



真実の湖 yessir (2022)
H60cm W60cm ¥25,000,000



Transporter (2024)
H120cm W120cm ¥5,000,000



FULL MOON (2025)
H57cm W57cm ¥2,200,000



向日葵 (2024)
H152cm W100cm ¥18,000,000



MAYO (2025)
H73cm W42cm D25cm ¥15,000,000



真実の海 The Impression (2025)
H100cm W100cm ¥18,000,000



24 seasons (2026)
H183cm W244cm (Ask)



The black star on 24 seasons (2026)
H40cm W40cm ¥900,000

PROJECT

作品を販売して得られた収益でリサイクル工場や農業、EVなどの事業、学校や美術館をつくり、2030年に向けて10,000名の雇用を目指す長坂真護。進捗中の事業と今年度の新作について一部紹介。



スーパーフード*「モリンガ」のお茶

長坂真護が手がける事業の一つとして、「人にも、地球にも健康的な価値を生み出す」農業事業があります。ガーナ・アクラ近郊の自社農園で育て、収穫したモリンガ茶葉を使用した商品「MAGO MORINGA TEA」を展開。本個展の開催を記念したモリンガ商品も限定販売いたします。

※スーパーフード:栄養バランスに優れ、一般的な食品より栄養価が高いとされる食品。



新作発表「二十四節気」

2025年に開催された福井県・金津創作の森美術館での個展期間中、長坂は森に滞在し、制作に没頭しました。その日々のなかで、四季という言葉では括れない、二週間ごとに移ろい連なっていく「二十四の季節」の存在を捉えます。本展では、新作シリーズ《二十四節気》の一部を初公開します。

still + BLACK STAR with 24 Seasons
長坂真護展
NAGASAKA MAGO EXHIBITION in NAGOYA 2026

2026 **4.10** 金 | **26** 日 |
営業期間 10:00-19:00 ※最終日は17:00に終了
会場 **エムズ ロイヤル ギャラリー**

M's ROYAL GALLERY
名古屋市千代田区名取4丁目9番8号
センチュリー豊田ビルB1F

美術は、人を救うためにある

美術家 長坂 真護 Nagasaka Mago

電子廃棄物の世界最大の墓場、ガーナ・アグボグブロシー。
この街に集まったゴミを、アートに変えて売り続ける、長坂真護。
彼はその利益で、リサイクル工場や農業、EVなどの事業、
学校や美術館をつくり、スラムの姿を変え、
人々にリアルな夢や希望を提供する。

Agbogbloshie, Ghana

日本のブランドのゴミも流れ着く。

アグボグブロシーには世界中から想像を超える量のゴミが流れ込んでいる。当然、日本ブランドの製品も流れ着き、少なからず私たちの暮らしもこの街へ影響を与えている。画像は日本ブランドの電子ゴミだけでつくられた作品 (JAPAN, 2021)。



僕はほんの数年前まで、スマートフォンやタブレットなどのガジェットを転売する「せどり」で糊口をしのぐ、年収100万円の路上画家だった。それが一転、21年度には約8億円を売り上げた。版画紙を反転させるように世界が変わった理由はただ1つ。サステナブル・キャピタリズム（持続可能な資本主義）という概念を考え、それに沿った行動をしたからだ。（長坂真護、サステナブル・キャピタリズム 資本主義の「先」を見る、日経BP, 2022, P2）

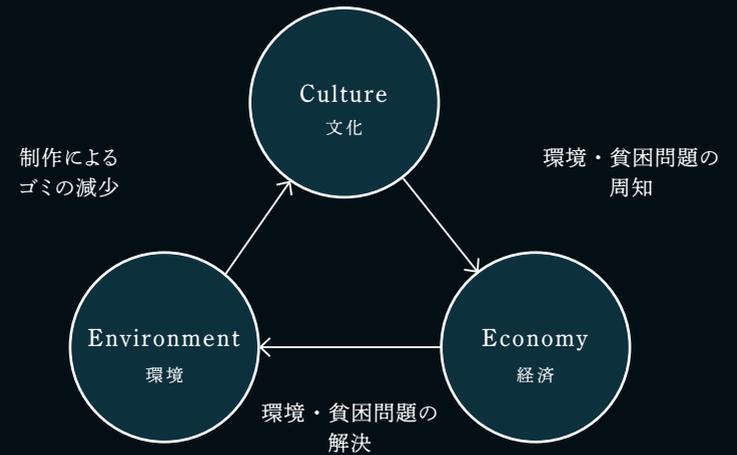


ガーナで目にしたのは、資本主義の作り出した闇の世界。
 僕がせどりで稼ぐ道具にしていた電子機器が、
 その後アグボグブローシーに不法投棄され、
 燃やされることで発生する有毒ガスなどによって、
 現地の人々の命を縮めているのかと思うと自分を恨みたくなった。
 この現実を目を背けてはならない。
 だが、一介の絵描きにすぎない自分に何ができるのか――



サステナブル・ キャピタリズム

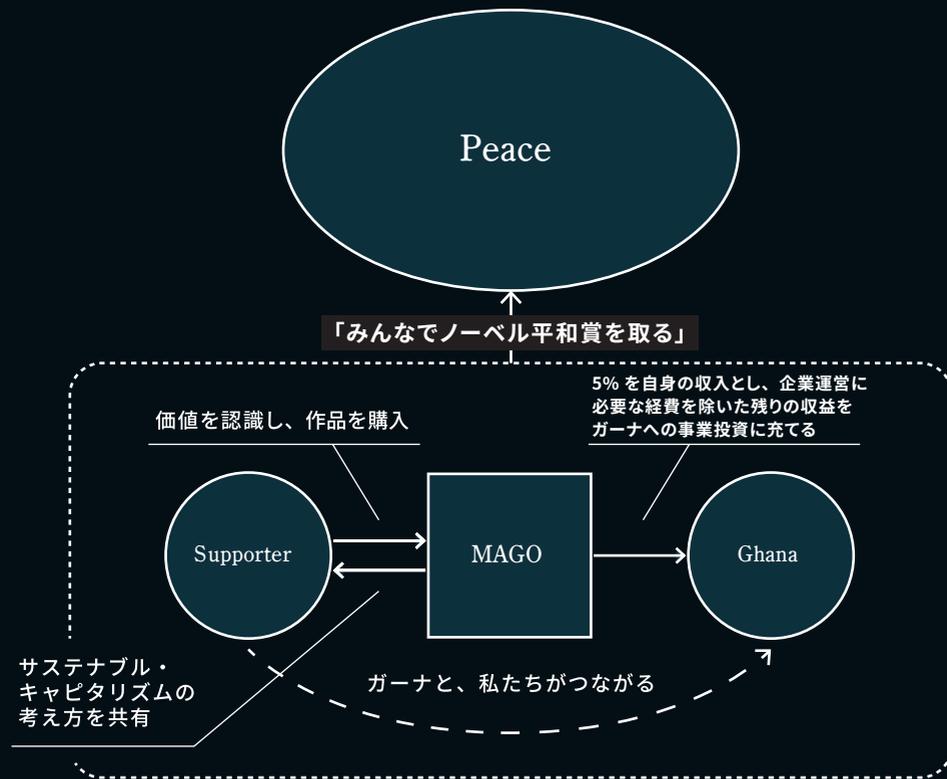
持続可能な資本主義



文化 電子ゴミを利用してアートをつくる。

経済 絵を売ったお金で現地に
リサイクル工場などをつくって雇用を増やす。

環境 作品を作れば作るほどゴミが減り、
アグボグブローシーの現実を世界に発信できる。



世界平和と、人々をつなぐ架け橋。

MAGO が共感と作品購入を通じて得た資金をもとに、
 ガーナ・アグボグブローで事業を実行し、
 現地に文化と仕事を根付かせます。
 寄付に依存せず、
 ビジネスを通じて持続可能な経済活動を
 創出することを目指すことで、
 ガーナの社会問題に対する根本的な解決策を提供します。

電子廃棄物の墓場から
 僕らは未来を描き出す



L ゴミの集積場に佇む親子 / R ↑ 学校の前で集まり学習をする子どもたち。写真はお遊戯中。 / R ↓ シティスキャンと言って、街の姿をアートに転化する制作活動



アグボグブロシーに、 仕事をつくる。

MAGO は、アグボグブロシーというスラムを良くすることで、その街全体の質を向上させようとしている。

彼はその利益で、リサイクル工場や農業、EVなどの事業、学校や美術館をつくり、2030年に向けて10,000名の雇用を目指す。

スラムの姿を変え、人々にリアルな夢や希望を提供する。

現在の雇用人数

62名

※ 2024年9月現在
※ 契約社員、パートを含む

リサイクル工場



アグボグブロシーの電子廃棄物を回収し、MAGOブロックの原料であるプラスチックチップをリサイクル工場で生産中。

農業事業



モリンガの苗4,000本、コーヒーの苗500本、プランテン500本をアクラ近郊の11エーカーの農園で育成中。2024年には3年の歳月を経て、日本でのモリンガティーの発売を開始。

EV事業



電気自動車やバス、キックボードなどの研究、開発、デザインを現地で行い、先進技術をスラムに投資。2023年、第一弾として、ガーナ人のデザイナー Godwin がデザインした新型電動キックボード「EQCO (イコー)」の発売を開始。

アートギャラリー



リサイクル工場の隣にアートギャラリーを開設。スラム出身のアーティストの育成やプロデュースを行い、全世界のMAGO GALLERY や美術館、百貨店で展示販売を実施。

ビーチクリーニング



先進国からの寄付過多により、大量のアパレル製品がアクラ近郊のビーチに投棄されている事実を知り、海岸の清掃活動を目的とした「ビーチクリーンプロジェクト」を開始。

回収したアパレル製品は炭化装置によって1/200に圧縮され、そのカーボンを60%使用した建材ブロックを開発。さらには、この生成カーボンからダイヤモンドを作り出すことに成功し、現在商品化に向けて準備を進めている。

教育



2018年、スラム街初の私立学校『MAGO ART AND STUDY』を設立。今後50年、MAGOが死ぬまで無料を保証した学校で、平日の夕方から未就学の子どもたちに英語・算数・社会・アートのレッスンを開いている。



サステナブル・キャピタリズムの
概念が古びたものになるまで、
僕は地球というキャンバスに
サステナブルな絵を描き続ける

2019年夏にアグボグブローで過ごした53日間の中で、
現地の人々とともに力を合わせて作った平和の象徴であるムーンタワー（月の塔）。
ガーナの大地に捨てられていたペットボトルを素材として利用し、
球状に編み上げ中心にライトを設置することで、鈍くも美しい光を放つ。

現在、大阪万博に向けて、「ムーンタワー」が再現される。
アグボグブローで放った光が、私たちの国でも灯ろうとしている。

PROFILE



長坂 真護

Nagasaka Mago

美術家

MAGO CREATION 株式会社 代表取締役

MAGO MOTORS JAPAN 株式会社 代表取締役

MAGO MOTORS LTD CEO

1984年生まれ。2017年6月、ガーナのスラム街・アグボグブロシーを訪れ、先進国が捨てた電子機器を燃やすことで生計を立てる人々と出会う。以降、廃棄物で作品を制作し、その売上から生まれた資金で現地にリサイクル工場建設を進めるほか、環境を汚染しない農業やEVなどの事業を展開。経済・文化・環境（社会貢献）の3軸が好循環する新しい資本主義の仕組み「サステナブル・キャピタリズム」を提唱し、スラム街をサステナブルタウンへ変貌させるため、日々精力的に活動を行っている。2022年9月、東京「上野の森美術館」にて自身初となる美術館個展を開催。同年11月、第51回ベストドレッサー賞、学術・文化部門受賞。ガーナに「MAGO MOTORS LTD」を設立し、現在ガーナ人62名が働いている。（2024年9月時点）

HISTORY

2007年 (23歳) アパレル会社を起業するが、1年で倒産
多額の負債をかかえる。

2009年 (25歳) 新宿の路上で絵を描き始める
その後、絵を描きながら世界16カ国を周り、ギャラリーなどへ売り込みを続ける。

2015年 (31歳) 中国・上海のギャラリーで初の個展を開催
パリの同時多発テロをきっかけに創作に変化が。世界平和の祈りを込めた「月」の作品を描き始める。

2016年 (32歳) アグボグブロシーとの出会い
ゴミ山の前に立つ1人の子どもの報道写真を見たことをきっかけに、世界最大級の電子廃棄物の墓場、ガーナのスラム街「アグボグブロシー」を知る。

2017年 (33歳) 単身、ガーナ・アグボグブロシーへ
電子ゴミを燃やし、有毒ガスを吸いながら1日500円で生計を立てるスラム街の人々を知り、衝撃を受ける。この不条理な現実をアートで変えることを決意。

2018年 (34歳) 売れたアートのお金を現地へ
スラム街の子どものモチーフに描いた作品が1,500万円で売れる。これを機にこれまで1,000個以上のガスマスクを届け、さらに現地に完全無料の私立学校「MAGO Art & Study」を設立。

2019年 (35歳) スラム街で初めての文化施設を設立
現地で新たな経済、社会を創出するため「MAGO E-waste Museum」を設立。設立までの2ヶ月半を、エミー賞受賞歴のある監督率いる映画クルーが撮影。「MAGO GALLERY」を国内にオープン。

2020年 (36歳) クラウドファンディング歴代1位獲得
自身の活動を伝えるドキュメンタリー映画「Still A Black Star」の製作費を募り、3,000万円を超える資金を集める。CAMPFIRE映画部門歴代1位を獲得（2020年8月時点）。

2021年 (37歳) 前人未到の売上を達成！
そしてMAGO GALLERYは世界へ
4月、伊勢丹新宿店で近年の美術催事売上最高額を更新。また10月には日本橋三越にて自身の展覧会史上最高額を記録。

2022年 (38歳) 自身初となる美術館での個展を開催
東京「上野の森美術館」にて自身初となる美術館個展を開催。同時期に阪急うめだ本店でも展覧会を行い、東西での大規模個展を開催した。第51回ベストドレッサー賞（学術・文化部門）受賞。
ガーナに「MAGO MOTORS Ltd.」を設立。

2023年 (39歳) MAGO MOTORS Ltd. に
100万米ドルの事業出資を開始
2023年10月時点で10万ドルの送金を完了。今後、段階的に出資を行い更なる事業拡大を目指す。さらには、ソニーのSTAR SPHEREプロジェクトへの参画や、大阪・関西万博における「ミドルクラゲ 海月（うみつき）プロジェクト」を始動。

ART WORKS

路上時代

DON'T FUCK WITH ME (2014)



H120cm W90cm

二丁拳銃の女 (2015)



H46cm W103cm

月

FULL MOON (2023)



H100cm W100cm

SUN (2021)



H120cm W120cm

ガーナ

Star ish girl (2022)



H180cm W100cm D100cm

真実の湖～ Can you hear me? ～ (2024)



H120cm W120cm

新世界

相对性理論 (2022)



H183cm W244cm

Tea pot on capitalism (2022)



H225cm W166cm

Chief of Apes (2022)



H1600cm W130cm

Ben is going to become plastics (2022)



H212cm W153cm

glory to glory (2022)



H76cm W122cm

向日葵 (2024)



H152cm W100cm

Same Planet